

2011年 NIE特集

教育に新聞を



早わかり
新聞活用



新聞活用学習(NIE)が子どもを伸ばす調査の結果・分析を紹介します。(高野義雄)

2011年4月 読売新聞別刷り



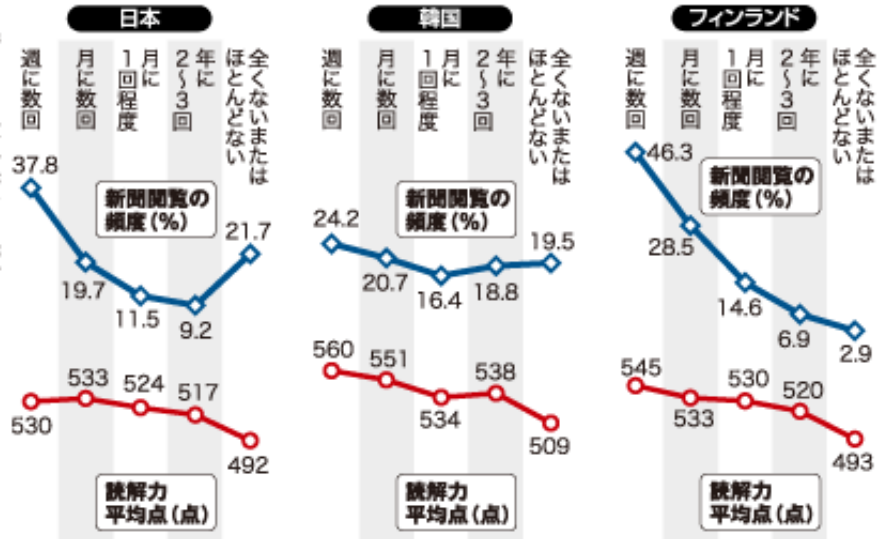
新聞 こんな効果



◆PISA上位グループと日本の順位変動(読解力)



◆新聞を読む頻度と読解力



(OECDのPISA調査のホームページより)



読解力が高得点

世界65か国・地域の15歳男女約47万人が参加した経済協力開発機構(OECD)の国際学習到達度調査(PISA)で、新聞や小説をよく読む生徒は読解力が高得点でした。これは、生徒が実生活で直面する様々な課題に、知識や技能をどれくらい活用できるかどうかを評価した2009年の調査結果

(2010年12月発表)です。

テストのほか、生徒には新聞やフィクション(小説)をどの程度読むかを質問しました。「週に数回」「月に数回」「月に1回程度」「年に2~3回」「全くか、ほとんどない」と選択肢が5つです。

読書習慣と読解力の得点の関連性を分析すると、日本の場合、新聞を「読む」(「週に数回」と「月に数回」)グループは平均531点で、「読まない」(「全くか、ほとんどない」「年に2~3回」「月に1回程度」)グループの506点より25点高い得点でした。

小説を「読む」グループは平均548点で、「読まない」グループの501点より47点も高く、新聞、小説とも「読む」生徒の得点が「読まない」生徒をかなり上回っていました。

OECD平均でも、やはり新聞や小説を読む生徒は読まない生徒より、読解力が高得点でした。

「趣味で読書はしない」生徒は44.2%で、2000年調査時より10.8ポイント減り、学校で広がる「朝の読書」などの対策が功を奏したと見られています。しかし、OECD平均の37.4%より依然多く、PISA初参加で「読解力」「数学的応用力」「科学的応用力」の全分野で1位だった上海の8%とは雲泥の差でした。

日本でこのテストは2009年6、7月に実施され、185校の高校1年生約6000人が参加しました。読解力テストの国際順位は、前回06年調査の15位から8位へアップしましたが、上位に初参加の上海とシンガポール、さらに韓国、香港が入り、アジア勢の中では精彩を欠いています。

大震災 報道の力



東日本大震災の津波にさらわれ、その後、炎上し、幼稚園児5人が死亡した送迎バスの前で手を合わせる女性(3月22日)



地震発生後初めて、温かい豚汁の炊き出しをする避難所の人たち(3月18日)

巨大地震に襲われた日本。多くの人々が犠牲になりました。原発が壊れ放射能の危険も出て、被災者、避難者の数は膨れ上がりました。新聞も連日、紙面の大半を震災関連の情報で埋め尽くす異例の展開となりました。

何が起きたのか。家族は、友人は、被災地は。放射能漏れはどうなる。避難所はどこ。水や食料、燃料、薬がない。これから一体どうなる—。

災害の全容がなかなかわからない中で、まず被災者に必要な情報を伝えるのが、メディアの役目です。何をどう取材し、どう伝えたか。新聞紙面を振り返ってみてください。

またメディアには被災地の様子や被災者の声を多くの人に知らせ、救助や支援の輪を広げる機能もあります。紙面を見て私たちが今何をすべきか、復興に向け何ができるか、教室でも考えてみましょう。行動できなくとも、困っている人たちに寄り添う気持ちを持つことは大切です。節電をし、必要以上に物や燃料を買い占めず、被災地を優先することも協力になります。

ネットやメールの情報は流れるのは早いですが、確かでない場合もあります。今回の震災でもデマが流され、混乱しました。発信元や内容を見極めることが大切です。

命と暮らしを守り、安心、安全をもたらすために、新聞がさらに果たすべき役割は何でしょう。子どもたちに、編集長になったつもりで考えさせてみて下さい。



社会に関心 高まる

小学生の新聞を読む頻度の変化

(2009年度。日本新聞協会新聞
教育文化部調べ。数字は%)

	毎日読む	時々読む	ほとんど読まない	無回答
NIE 実施前	17.2	53.8	28.9	0.1
実施後	21.2	58.9	19.7	0.1

NIEによって児童生徒は社会への関心を高め、生き生き学習に取り組むようになることが、日本新聞協会新聞教育文化部が実施したNIE効果測定調査でわかりました。2009年度のNIE実践指定校248校(小中高校)の児童生徒と教師を調査したものです。

それによると、「新聞を毎日または時々読む」小学生は、NIE実践前の71%から実践後は80%にアップ。中学・高校生でも数ポイントずつ上昇しました。

よく読む記事ベスト5は、小中学生が「ラジオ・テレビ欄」「マンガ」「天気予報」「事件・事故」「スポーツ」で、高校生は「マンガ」の代わりに「芸能」が入ります。実践後もこの傾向はあまり変わりませんが、ベスト5に続く「社会」「政治」「教育」「地域」など社会生活に関連した記事の回答が増えました。

新聞を使った授業を受けた感想は、小学生の84%、中学生の65%、高校生の66%が「大変面白かった」または「少し面白かった」と答え、新聞が魅力的な教材であることがわかります。

また、NIEの授業で時事問題やニュースを取り上げることについて、「大変よかった」「よかった」という答えの合計は、小学生で75%、中学生で65%、高校生で73%ありました。

教師はどう受け止めたのでしょうか。NIE実践の前後に教師が感じた児童生徒の変化は「新聞を進んで読むようになった」(75%)がトップでした。これに「記事について友人や家族と話すようになった」(71%)、「自分で調べる態度が身につく」(68%)、「読む、書くことが増えた」(62%)が続きます。

こうした教育効果を実感しながら、「新聞活用の難しさ」として「教材研究の時間が足りない」「新聞活用の時間確保が難しい」を課題に挙げています。



読んで 考え 表現しよう

新聞活用 みや ざき かつ し 宮崎活志氏に聞く
(文部科学省初等中等教育局視学官)

—新しい学習指導要領では主体的に学ぶことが求められています。

宮崎 これからを生きる子どもには、課題解決へ必要な思考力、判断力、表現力を育み、主体的に学習する態度が重要です。でも情報を読み解き、それに対する自分の考えを確立して伝える練習が少ないのではないかと。国際的なテストで読解力が落ちたことがわかると、よく言われました。言葉について学び考え、表現していく活動を色々な形で授業に取り入れてほしい。言葉は

知的活動だけでなく、感性や情緒の基盤です。

◆新しい小学校教科書に登場する新聞活用の事例

	会社	学年	内容
国語	東京書籍	5年	2通りの記事を読み比べ、書き手の意図を読み取る
		6年	投書を読み比べ、説得力のある文章の書き方を学ぶ
	光村図書	5年	新聞の構成を知る
	学校図書	5年	一般紙とスポーツ紙、全国版と地域版を読み比べる
		6年	「メディア・リテラシー」の説明文で情報を批判的に読む
	三省堂	5年	地域の良さを伝える「グループ新聞」を作る
6年		興味を持った記事の感想を発表する	
社会	東京書籍	6年	政治と憲法の記事を探し、話し合う
	光村図書	5年	地震の記事で情報の伝え方を学ぶ
	教育出版	3、4年	「安全なまちづくり新聞」を作る
	日本文教出版	5年	新聞の作られる過程などを知る
算数	大日本図書	4年	およその数を新聞などから探す
理科	東京書籍	4年	最高気温更新の記事で気温と天気の関係学ぶ

—そのために新聞が活用できるということですね。

宮崎 新聞は総合性、一覧性、詳報性、保存性といった特性があり、読み手は主体的に使えます。言葉を有効に使うことや、思考し判断して表現するのに適した教材です。

—活用する際のアドバイスをお願いします。

宮崎 国語科なら直接新聞を扱うだけでなく、取材の仕方や文献の調べ方など、学習の土台になる能力を磨くことも大切です。先生方にはぜひ新聞を日常的に意識的に読んでいただきたい。新聞に自覚的に接してもらうことで、多くの教科で子ども達への指導の手がかりが生まれるはずです。

(井上亜希子)